

1. 評価報告概要表

作成日2007/10/22

【評価実施概要】

事業所番号	1072300203
法人名	有限会社 若大河
事業所名	グループホーム 吉井マリル
所在地	群馬県多野郡吉井町吉井川768-1 (電話) 027-387-4610

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年7月25日

【情報提供票より】(H19年 7月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人, 非常勤 4 人 常勤換算11人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	工作費 300円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 10日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	67 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉井中央診療所 松本医院 西毛病院 設楽歯科 公立藤岡総合病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム吉井マリルは、その人らしい生活を支援することを介護のモットーとしており、職員と利用者が共に楽しく過せるようホームの明るい雰囲気づくりに気配りがされている。健康管理に配慮しつつ入居者の外出支援にも積極的なケアサービスの提供に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で、門扉の色や木々の枝で玄関先が重苦しい雰囲気であると指摘され、職員との話し合いで木を剪定し、プランターに草花を植えて雰囲気を明るくした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対するの取り組みでは、ケース会議を月1回から月2回に増やし、他の職員への研修の伝達の実施や記録の内容の改善、居室の棚の取り付け、ホーム内の壁を季節感のあるものに改善した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、ホームの納涼祭やクリスマス会等行事の報告、「ホームとして地域に出来ること」や「地域の人達との交流の促進方法」等についての意見交換を行い、その実現に向け取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や運営推進会議で家族の意見を聞いて、その実現に努めている。また、会報での管理者のメッセージや行事での家族との交流をとおして意見を聞く機会を設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>定期的に町内会の道路清掃のゴミ拾いや、年一回行なわれる町の文化祭には利用者と職員と一緒に発表会へ参加し、地域の人々との触れ合いに努めている。また、隣接する幼稚園の運動会に招待され参加したり、ホームが開催する敬老会に園児を招き交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の地域生活の継続を支えるため、入居申込者や入居希望者及びご家族に管理者、職員が事前に面談し、利用者の状態把握を行い、「その人らしい介護」を理念としてケアサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケース会議において管理者と職員が話し合い、理念の共有を図っている。また、日頃から利用者の日々の様子を観察し、「連絡ノート」や「申し送り」等で職員間の連携を図り、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に町内会の道路清掃のゴミ拾いや年一回行なわれる町の文化祭の発表会に利用者が参加し、地域の人々との触れ合いに努めている。また、近所の幼稚園の運動会に招待され参加したり、ホームが開催する敬老会に園児を招き交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で、門扉の色や木々の枝で玄関先が重苦しい雰囲気であると指摘され、職員との話し合いで木を剪定し、プランターに草花を植えて雰囲気を変えた。また、自己評価では、ケース会議を月2回に増やし、他の職員への研修の伝達の実施や記録の内容の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進員には、老人会の会長、民生児童委員、家族が出席し、納涼祭やクリスマス会等行事の報告、「ホームとして地域に出来ること」や「地域の人達との交流の促進方法」等についての意見交換を行い、その実現に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会や各種行事の案内を出しているが、出席はされていない。	○	町の担当者と緊密な連携を引き続き継続し、サービスの質の向上に取り組むよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に2回会報を郵送し、写真で行事の様子や管理者からのメッセージ等を伝えている。また、健康状態等必要に応じて電話で伝えたり、月に1回の利用料金の支払時に、利用者の個人の買い物でホームが立て替え分の清算説明の際に身体状況等も伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族に生活歴、生活の様子、対応の方法を聞く等情報の収集に努めると共に、家族の意見を聞き、運営推進会議にも出来るだけ出席を求め、意見を取り入れようとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用当初は入居者への直接介助を担当はさせず、ホームの雰囲気や利用者との信頼関係が築けてから1ヶ月を目安に関わりを作り、正式に採用し利用者が馴染みの職員に支援を受けられるよう援助している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を採用した際には、一ヶ月間はホームの雰囲気の理解や入居者との信頼関係が築けるよう新規採用職員への指導に当り、正式採用を職員と相談して決めている。また、全職員に対して各種の研修・講習会の紹介もしている。	○	研修会の紹介も含めて、職員の経験や到達段階に応じて計画的に育成されるような職員教育の仕組みづくりの構築を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医師会や町主催の研修会への出席、グループホーム連絡協議会のブロック活動での事例発表等について、参加報告している。欠席者には連絡帳を活用して伝達している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が事前に訪問若しくは、面接でご本人について情報の収集を行っている。また希望があれば一日体験を受け入るなどして、不安や孤独感を取り除き信頼関係を築くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理のレクリエーションでは、ホットプレートでの料理を利用者と職員と一緒に作ったり、料理の下ごしらえ、園芸等も一緒に行い、その人と会話を重ねて関係を築けるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の苦手な入居者には朝食を遅らせる等入居者の体調や生活習慣に合わせた対応や介護計画になっているが、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、それまでの状況の把握が十分でない。	○	利用者の現在の様子の他に、元気があった頃やホームの入居以前の様子の情報をアセスメントし、ホームでどのような生活がしたいか等の意見を聞いた上対応したり、介護計画に活かすことを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の意見を聞き、管理者や職員がアセスメントを含め日常生活の中で本人の思いや意向を把握し、また医師より健康状態の情報を得て、ケース会議で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	面会時等に家族へ利用者本人の生活状況を伝え、家族の意見を聞き取った上で、ケース会議で介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者以外の家族から認知症や介護保険制度についての電話相談等があり対応している。また、利用者の通院や美容院への外出には職員が送迎するなど入居者の希望に沿うよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が2週間に1回往診し、ホームではその医師の指示の下健康管理にあたっている。また、通院が必要な場合は、管理者か看護師が付き添い、家族の希望と医師の指示に基づいて、対応をすることもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院が必要となった場合など、かかりつけ医、家族、管理者で話し合い、終末期の過ごし方について相談している。その内容については、ケース会議等で報告し職員は情報共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用時には、個人情報の取扱について、誓約書をかいてもらう等、入居者への言葉遣いから個人情報の保護に至るまで注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の苦手な入居者は、起床時間に合わせ、日課を無理に押し付けず朝食を遅らせる等、その人の生活リズムにあった支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は、お茶注ぎ、配膳、片付け、テーブル拭き等を職員と一緒に協働して行い、また、月に1回程度家族にも参加を呼びかけ、庭にテーブルを出して皆と一緒にサンマを焼いて食べる等楽しく食事が出来る機会を持つことを大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回全介助の人は午前、一部介助の人は午後定期的に入浴している。また、その入浴日以外に希望があった場合には午後に入浴していただいている。また、体調が不良で入浴の出来ない入居者については、シャワー浴若しくは清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、貼り絵、手芸、新聞のクイズへの応募、クロスワードパズル、花を生ける、漬物作りの手伝い等、趣味や得意なことを、入居者一人ひとりその時々々の希望に合った楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩の他、年間行事予定を立て初詣・お花見・町のお祭り・家族とのドライブ等計画的に外出の機会を設けている。入居者の希望を聞きながらドライブに出かけることもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は鍵が掛けられていないが、屋外の離れた門扉については、施錠し来訪者からのインターホンの受け答えで対応している。	○	地域住民の人達がホームを訪問しやすい雰囲気づくりと利用者の心理的圧迫感のない環境作りのためにも、鍵ではなく外からも開けられる物にする等の工夫を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防団と消防署の立会いの下、年2回避難訓練を実施している。また協力体制については消防団と地域の人達には助け合いをお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量はチェック表に毎日記録し、把握している。また、入居者の栄養摂取状態によっては、かかり付け医に上申・報告・相談によって、指示を得て健康維持できるよう対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の前にはプランターに草花が植えられ、季節感がある。また食堂にはソファやテレビ、カラオケセットが置かれ、また一人掛け用の食卓も配置されそれぞれ、それぞれが居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれ入居者の馴染みの家具やテレビが持ち込まれたり、壁に入居者が作成した塗り絵等の作品や写真等それぞれ好みの物を掲示し、利用者本人の居室で居心地良く過ごせるよう配慮されている。		